

道徳科学習指導案

日 時 令和元年5月31日(金) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年D組34名
会 場 1A3A教室
授業者 木村 義輝

1 ユニット名 「働くとは？」
教材名 「段ボールベッドへの思い」【C(13) 勤労】(本時4/4時間目)

2 ユニットについて

(1) 生徒観

4月に教研式道徳教育アセスメント BEING を実施した。この調査結果によると、問題場面における気持ちと行動のバランスについて、「気持ちは望ましい傾向にあっても行動に出にくい傾向にある」生徒が本学級に多いことが分かった。また、学校生活の様々な場面で発揮されるであろう生徒の行動面についての自己評価では、「清掃への取り組み(【勤労・奉仕】)」について、「いつもしている」と答えた生徒の割合が53%で、全国平均44%を上回っている。一方、「積極的な挨拶(【基本的な生活習慣】)」について、「いつもしている」と答えた生徒の割合は24%(全国平均50%)、規則正しい生活(【健康・体力の向上】)」について、「いつもしている」と答えた生徒の割合は26%(全国平均40%)であり、本学級の生徒の実態が調査の結果から明らかになった。

道徳の授業にどの程度生徒が積極的に取り組んでいるかについて、「自分のことを振り返り深く考え」ている生徒は68%(全国平均35%)、「登場人物の立場で考え」ている生徒は71%(全国平均40%)という結果であり、「素直に発言している」、「友達の意見から学ぶ」などの全ての項目で全国平均を上回っている。

以上の結果から、本学級の生徒は、道徳の授業に対して積極的に取り組んでいることが分かる。しかし、内容項目の大切さを理解しているものの、行動に結びついていない生徒が多い傾向にあり、その傾向も内容項目ごとに大きな差がある。本ユニットで取り扱う内容項目の【勤労】については、ある程度の理解が図られているといえる。

【表1 生徒の事前アンケート結果】

ユニットの学習前に、「将来働くときに、大切にしたいことは何か」という質問に対して、自由に記述させた。その記述した内容を関連する内容項目ごとに分類すると【表1】のような結果であった。多くの生徒が、働く際の自分の気持ちの在り方や、人とどのように接していくかという視点に留まっていることが分かる。当然、これらの考えも大切であるが、働くことによって社会に貢献し、その喜びによって、より充実した生き方の実現につながるものだという視点をもっている生徒は少ない。

関連する内容項目	人数	主な回答
A 主として自分自身に関する事	16人	・目標をもつ ・一生懸命 ・責任をもつ
B 主として人の関わりに関する事	11人	・思いやる ・人間関係 ・感謝の心
C 主として集団や社会との関わりに関する事	7人	・誰かのため ・社会のため

(2) 教材観

本ユニットは、働くことについて4つの内容項目で構成した。『中学校学習指導要領解説道徳編』のA【主として自分自身に関する事】から、【(4) 希望と勇気、克己と強い意志】「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる事」、【(5) 真理の探究、創造】「真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める事」について学習する。また、B【主として人の関わりに関する事】から、【(7) 礼儀】「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること」について学習したのち、C【主として集団や社会との関わりに関する事】から、【(13) 勤労】「勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること」についての題材を加えることで、一つのテーマについて、多面的・多角的に考え、深めさせていく。

(3) 教科研究との関わり

本校道徳科において、学びの本質とは、①道徳的諸価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下に

において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する能力, ②自己を見つめ, 他者と協働し, 物事を広い視野から多面的・多角的に考える力, ③自己の生き方についての考えを深め, 人としてよりよく生きようと探求する力, という三つの資質・能力を育成する過程であり, 「自ら考え, 他者と協働し, 人としてよりよく生きようとする」ことと捉えている。

研究の視点1 本校のカリキュラムに即した年間計画(重点項目, ユニット)に沿った授業

※研究総論との関わり:(1)教科等固有の見方・考え方を働かせる問題解決的な学びのプロセス

中央教育審議会では, 「社会に開かれた教育課程」の考え方の下, 教育課程の基準の改善について, 「アクティブ・ラーニングの視点による授業改善」と「カリキュラム・マネジメント」の充実が示されている。道徳科では, 研究総論で示している「本校で育成を目指す資質・能力」を生徒に育むために, カリキュラム・マネジメントの視点から, 【表2】のように, 年間3回ユニットを組んで, 一つのテーマを数時間に渡って考えさせていく。各教科等の教育内容を相互の関係で捉え, 学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で, 目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列することに留意しながら, カリキュラムをデザインした。

【表2 2学年のユニット構成】

ユニット名	各教科・領域等, 行事と道徳教育との関連	重点指導内容
ユニット1 働くとは?	HS(校外学習)	C(13)勤労
ユニット2 集団生活を充実させるためには?	特別活動(文化祭)	C(15)よりよい学校生活, 集団生活の充実
ユニット3 生命の尊さについて考える	復興教育(東日本大震災関連)	D(19)生命の尊さ

本校では, 「総合的な学習の時間」をヒューマンセミナー(以下HS)と名付け, 3年間を通して自己の生き方を探求する学習を展開している。1年時には, 学習テーマを「自分自身を見つめる」(夢をもって生きるとはどのようなことか)と設定し, 学年で早池峰山に登山をしたり, 本校卒業生を講師としてお招きし, 夢についての講演会を開催したりしてきた。2学年の学習テーマは, 「他者から学ぶ」(「誠をもって働く」とはどのようなことか)である。学級ごとに岩手県内4か所(以下, 校外学習)に分かれて, 第一次産業の体験学習と, そこで働く講師の方々の講演を通して, 働くことや人生いかに生きるべきかについての考えを深めさせていく。本校の教育課程はこのHSを中核として編成されており, 各教科で育成された資質・能力を教科横断的にHSの時間で活用させることで, 学校教育目標である, 「よく考え, 誠をもって働く人間」の実現を目指すものである。

校外学習の講師の先生方はどの方も, 夢や目標をもって働きながら, 社会に貢献し, 誰かのために自分を顧みず働いている方々である。そうした方々と共に働き, その生き方に直接触れることで, 思考の深まりを目指す。学習地に赴く前に, 働くことについて自分なりの考えをきちんともって臨ませるためにも, 道徳科の学習とHSの学習をつなげ, 教科横断的に学習を進めることで, 道徳科での学びをより深いものにさせていきたいと考える。

※詳細は p.24 3 ユニット計画(4)指導計画及び評価計画

研究の視点2 道徳的価値理解を基に自己を見つめ, 生き方について考えを深める授業

※研究総論との関わり:(1)教科等固有の見方・考え方を働かせる問題解決的な学びのプロセス

(3) 真正な学びの場の設定

「考える道徳への転換に向けたワーキンググループにおける審議の取りまとめ」では, 道徳科における「見方・考え方」を, 道徳科の目標から「様々な事象を, 道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え, 人間としての生き方について考えること」と示している。これを基に本校道徳科では, 一単位時間における学習指導過程を以下のように整理した。

- ① 道徳的諸価値について考えること
 - ② 自己を見つめること
 - ③ 人間としての生き方についての考えを深めること
- ※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること

基本的な一単位時間の流れは, 「①道徳的諸価値について考える」学習を展開の前段部分で行い, 教材から生徒が感じた道徳的諸価値への多様な気づきを大切にしながら, 学級全体で道徳的諸価値が大切であることを確認する(価値理解)。その価値理解を基に, 後段で「②自己を見つめ」させていく。前段で確認した道徳的価値を自分との関わり, これまでの自分の経験やそのときの考え方, 感じ方と照らし合

わせながらさらに考えを深めさせていく。その際、一定の道徳的価値から関連する道徳的価値に広がりをもたせて考えるようにする、多角的な理解を促すことも大切であるとする。そして、終末では、一単位時間を振り返って「③人間としての生き方について」じっくり考えさせる。①～③の学習指導過程のなかで、「※多面的・多角的に考え」させることに留意しながら展開することで、道徳的価値観の形成を図る。

今回「特別の教科 道徳」が改訂されるに至った経緯として、他教科に比べて軽んじられていること、主題のねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合いや、読み物の登場人物の心情の読み取りにのみ偏った形式的な指導が行われていたこと、望ましいと思われることやわかりきったことを言わせたり書かせたりする指導が多いことなどが指摘されている。

こうした課題を克服するためにも、現実の世界に存在する多様な価値観に触れさせたり、対立がある場面で誠実に価値に向き合わせたり、未来を予見できないからこそ、答えの無い問題にも納得解を導き出す問題解決的な学習を積み重ねたりすることが必要であるとする。（「**真正な学びの場の設定**」）

このように、「見方・考え方」を働かせて人間としての生き方を考える過程で、自分自身の良さや課題に向き合わせ、人間の強さや弱さを共有し、それを踏まえてあるべき姿を探求させていくことが、「人間の強み」の発揮につながるものであると捉える。

研究の視点3 ユニットを通じた振り返りによる学びの変容の見とりと評価

※研究総論との関わり：(2) 学びの自覚化

『学習指導要領 総則』の「教育課程の実施と学習評価」として、「生徒の良い点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容やまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の生かすようにすること」という記述がある。

道徳科における評価とは、生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものである。また、指導要録等へ、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて励ます、個人内評価を記述で行うにあたっては、生徒一人一人の学びの変容を適切に見とっていくことが大切であるとする。以上の理由から、ユニットごとに振り返りシートを活用し、生徒の学びの変容を見とるとともに、評価のための資料として蓄積していく。また、生徒に学びの過程を自覚させ、メタ認知能力の育成を図るものである。

本ユニットでは、学習する前に生徒が考えていた「将来働くときに大切にしたいこと」が、4時間の学習を経てどのように考えが変容したかを見とっていく。実際の評価の記述では、前半にユニット全体を通してどのような変容が見られたか（**大きくくりな評価**）、後半に発言や記述、パフォーマンス等、顕著な姿が見られた学習の様子（**際立った一つの教材の中で見られる具体的な学習状況の評価**）を記述していく計画であり、150～200字程度をおおよその目途とする。

※詳細は教科論 p. 4

3 ユニット計画

(1) 育成を目指す資質・能力

- ① 「働くとは？」というテーマのもと、【希望と勇氣、克己と強い意志】、【真理の探究、創造】、【礼儀】、【勤労】などの道徳的諸価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する力。
- ② 自己を見つめ、他者と協働し、「働くとは？」というテーマについて、ユニットを通して広い視野から多面的・多角的に考える力。
- ③ 「働くとは？」というテーマについてユニットを通して考えたことをもとに、自己の生き方についての考えを深め、人としてよりよく生きようと探求する力。

(2) 指導目標

- ① 一単位時間で扱う内容項目を明確にし、各時間の価値理解の深化を促すとともに、ユニット全体の学習を通して、道徳的諸価値を統合させる。
- ② 価値理解を基に自己を見つめさせ、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的な思考を促す。
- ③ 自己のこれまでの生き方、これからの生き方について考えさせ、人としてよりよく生きようと探究する態度を促す。

(3) 評価の視点

	① 道徳的諸価値について考えること	② 自己を見つめること	③ 人間としての生き方についての考えを深めること	※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること
目指す生徒の姿	自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりしている。	価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。	学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。	道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。

(4) 指導計画及び評価計画

時	「資料」【内容項目】 ○本時のテーマ ・学習内容 ◆指導の留意点	評価の視点
1	<p>「夢を求めてパラリンピック」【希望と勇気、克己と強い意志】</p> <p>○「目標を設定し、着実にやり遂げるために大切なことは何か。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニット1では、「働くとは？」というテーマで学習を進めていくことを確認し、今後の学習の見通しをもつ。ユニット1の振り返りシートに、「将来働くときに、大切にしたいことは何か」記述する。 ・ 成田さんが、頑張り続けることができた理由を考えることを通して、価値理解する。 ・ 価値理解を基に、目標を達成するためにどうしていくことが大切か、今までの生活を振り返って考える。 ・ 振り返りシートに、本時のテーマに対して考えたことを記述する。 <p>◆ 内容項目【勤労】について、「勤労を支える道徳的価値として重視すべきなのは、勤勉である。勤勉とは、自己の精神を集中させようと努力することであり、一つの事に没頭することである」と学習指導要領に示されている。これは、本時で取り扱う【希望と勇気、克己と強い意志】に通ずるものであることから本ユニットに編成した。</p>	<p>① 自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりしている。</p> <p>② 価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。</p> <p>③ 学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。</p> <p>※ 道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。</p>
2	<p>「スカイツリーにかけた夢」【真理の探究、創造】</p> <p>○「新しいものを生み出していくときに大切なことは何だろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉野さんが、厳しい条件に合わせて、新しいものを造り上げたのは、どんな思いに支えられていたか考えることを通して、価値理解する。 ・ 価値理解を基に、新しいものを生み出すときに、これから大切にしていきたいことや取り入れていきたいことは何か振り返る。 ・ 振り返りシートに、本時のテーマに対して考えたことを記述する。 	
3	<p>「秀さんの心」【礼儀】</p> <p>○「礼儀には、どのような意味があるのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この話の中の問題場面が何か考える。 ・ 礼儀にはどのような意味があるのか考えることを通して、価値理解する。 ・ 価値理解を基に、礼儀正しく行動できたこと、できなかった経験について振り返る。 <p>◆ 礼儀正しく行動できなかった経験がある場合、礼儀が大切であることが分かっているにもかかわらず実行できない自分であったのは、自分のどのようなところに原因があるか考えさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに、これからの日常生活で大切にしていきたいと思ったこと、実践したいと思ったことは何か記述する。 	
4 本 時	<p>「段ボールベッドへの思い」【勤労】</p> <p>○「働くうえで大切なことは何か」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「私」が、働くということについて気が付いた、「大切なこと」とは何かを考えることを通して、価値理解する。 ・ 価値理解を基に、「将来働くときに、大切にしたいことは何か」考える。 <p>◆ ユニット全体の学習を通して考えたことを記述させる。</p>	<p>※上記①～③、※に加え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットのテーマ「働くとは？」についての考えが変容している。
事 後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外学習後、HS学習テーマ『誠をもって働く』とはどのようなことかについて考えをまとめる。 ◆ 教科横断的な視点で振り返らせるために、事前に考えた道徳科での振り返りシートを想起させて記述させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間の評価として見とる。

4 本時について

(1) 資料名 「段ボールベッドへの思い」(中学道徳② きみがいちばんひかるとき 光村図書)

(2) ねらい

災害の避難者の健康を考えて段ボールベッドを考案し、設計図を無償で公表した会社の話を通して、人にとって働くことにはどんな意味があるのかを考えさせ、人や社会のために働いていこうとする実践意欲と態度を育てる。

(3) 資料のあらすじ

本教材は、段ボールを作る会社に勤務するおじさんの話から、「私」が勤労の尊さや意義を考え、働くことを通して社会に貢献することの大切さに気付いていく内容である。

「私」は、おじさんの勤める会社が、非常時に使用できる段ボールベッドを考案し、避難者の二次的健康被害や震災関連死の予防に役立っている話を聞く。ベッドや設計図の無償提供のことも知り、働くことには、利益を出して収入を得ることだけでなく、他にも大切なことがあることに気づく。

(4) 授業の構想

本時は、『中学校学習指導要領解説道徳編』のC[主として集団や社会との関わりに関すること]から、【(13) 勤労】「勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること」を道徳的価値の中心に据えて展開していく。

導入では、ユニットの学習を想起させながら、本時のテーマを確認し、テーマについて自分なりの考えをもたせていく。

展開の前段では、教材を基に価値理解を深めさせるために、教材に登場する「私」やおじさん(水谷嘉浩氏)の気持ちや考えを整理していく。展開前段の①・②の発問は教材を自分自身に引き寄せさせることをねらいとした発問である。①の発問では、自分が避難所で生活することを想起させながら考えさせることで、避難所での生活の様々な問題点に気づかせていきたい。そして、段ボールベッドが避難所での生活を大きく改善するものであることを確認していく。次に、②の発問では、立場を変えて考えさせることで、水谷氏の行動を多角的な視点で捉えさせていく。東日本大震災後、水谷氏は自らトラックを運転して段ボールベッドを避難所に届けている。目の前で苦しんでいる被災者を助けたいという思いは、やがて、設計図の無償公表へとつながるのである。予見できない自然災害や、会ったことのない誰かのために、利益を度外視して自分にできることが何かを考え行動する水谷氏の思いに迫らせていく。

次に、価値に迫るために「私」が気付いた「大切なこと」とは何か考えさせる。生徒に事前に書かせた「将来働くときに、大切にしたいことは何か」という質問に対して、多くの生徒は「自分が働く」という視点に留まっており、働くことを通して「社会や誰かのために貢献する」という視点の形成には至っていない。水谷氏的心情や態度に寄り添うことで、本時のねらいとする価値の大切さに気付かせていきたい。そして、ここまでの展開前段を通して水谷氏から学んだことを全体で確認する。

展開の後段では、前段の価値理解を基に、ユニット4時間の学習を通して考えた、「将来働くときに、大切にしたいことは何か」について記述させる。道徳的価値を自分のこととして捉えさせる(②自己を見つめること)ことで、今後の「③人間としての生き方についての考えを深め」させていきたい。また、お互いの考えを交流することを通して、「勤労」という道徳的価値の多面性に気づかせたい。

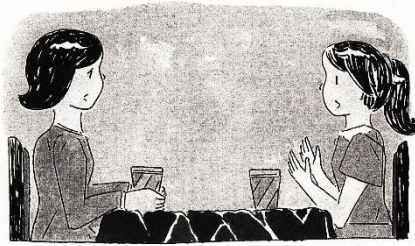
終末では、ユニットの学習を振り返って道徳的価値の大切さを教師と生徒で共有していきたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・ 予想される生徒の反応	時間 (分)	指導上の留意点および評価の視点 ・ 指導上の留意点 ○※評価の視点
導入	1 本時のテーマを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">働くうえで大切なことは何か。</div> 2 本時のテーマについて、自分の考えを書く。	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットの学習を振り返らせる。
展開 前段	3 資料を読んで、考える。 ① 東日本大震災の避難所の様子を見てどう感じるか。問題点は何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人が多くて大変そう。 ・ 休まらない。 ・ プライバシーがない。 ② 自分がこの会社の社員だったら、設計図を無償で公表したことをどう思うか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなを助けるために公表すべき。 ・ どちらともいえない。社長の言うことに従う。 ・ 会社の利益を考えると、公表しない方が良い。 ③ 「私」が、働くということについて気が付いた、「大切なこと」とは何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 働く目的は、自分の生活を安定させるためばかりではない。 ・ 人のために働くことが社会貢献につながり、それが自分にとっての働きがいや生きがいとなる。 4 水谷氏から学んだことを確認する。	25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が避難所で生活することを想起させる。 ※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで考えを交流させる。 ① 道徳的諸価値について考えること <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入で出された考えも関連付けて確認する。
展開 後段	5 自己を見つめ、人間としての生き方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">将来働くときに、大切にしたいことは何か</div> (ユニット全体の学習を通して考えたことを記述する。) 6 4人グループで考えを交流する。	15	② 自己を見つめること ③ 人間としての生き方についての考えを深めること ※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること
終末	7 教師の説話を聞く。	3	

段ボールベッドへの思い

編集委員会
北澤平祐 絵



私の学校では、二年生になると職場体験があります。その前に、「仕事」について考えるため、家族や身近な人から話を聞いてくるという宿題が出ました。私はどんな仕事のことを、誰にきこうか迷っていました。「大阪のおじさんが段ボールを作る会社」に勤めているから、話を聞いてみたらどう？」と、母が言いました。「段ボールって、あの引っ越しや宅配に使われる箱？ なんだかちょっと地味なあ。」私があまり気乗りしないしていると、母は続けて言いました。「段ボールの使い道は、箱だけじゃないらしいよ。緊急時には段ボールベッドも作っているぞよ。」「段ボールベッド？」私は、どうして段ボールを作る会社がベッドまで作っているのか、不思議に思いました。そこで、大阪のおじさんに頼んで、インタビューさせてもらうことにしました。

私

おじさんの勤める会社は、段ボールを作っていると聞きました。主な製品は、段ボール箱ということですか。

おじさん

そうだよ。けれど段ボール箱にも、とてもたくさんの種類があるんだよ。使う用途によって大きさもさまざまだし、表面に施す印刷も変わる。お客様の要望に合わせて段ボールの仕様を変える必要があるんだ。

私

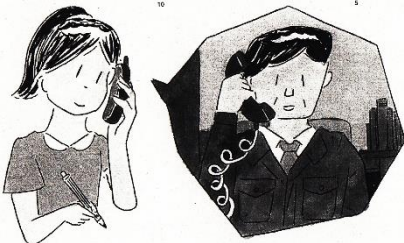
段ボール箱を作るときに、注意していることはありますか。

おじさん

お客様の要望に合ったものを、なるべく安く、かつ丈夫に作るんだね。そして、必要なときに必要な個数を納品できることが重要なんだ。例えばワンタッチで組み立てられるものか、蓋を開けると内側に模様があるものか、お客様の要望は本当にさまざまなんだ。それにしっかりと応えられること、そしてちゃんと納品することができて、初めてお金を得ることにつながると思うよ。

私

既にあるものをそのまま売るのはなく、お客様の求めることにしっかりと応えることが大切ですね。作っている製品の中に段ボールベッドもあると聞きました。それは、どうしてですか。



75

74

おじさん

段ボールベッドは、あるきっかけがあって、作ったものなんだよ。

私

きっかけ？ どんなことがきっかけとなったのですか。

おじさん

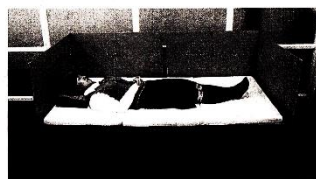
きっかけは、東日本大震災なんだ。東日本大震災のとき、避難所の環境がよくなってエコノミークラス症候群^{*}になったり、低体温症など増えてきたりした方が、大勢いらっしやった。そこで、避難所の生活の質を高め、避難者の二次的健康被害や震災関連死を少しでも予防することができるとはなれないかと、段ボールベッドを考案したんだ。

私

簡単なベッドというと、パイプのベッドもあると思うのですが、段ボールベッドのよいところは、何ですか。

おじさん

- 段ボールベッドのよいところは、たくさんあるんだよ。例えば、
- ① 空気の層でできているので、暖かい。
 - ② 余震の揺れや歩行者の振動を伝えにくい。
 - ③ いびきやせきなどの音を和らげてくれる。
 - ④ 昼間は椅子の代わりになる。
 - ⑤ ベッドの中が収納スペースになる。
 - ⑥ 仮設住宅に引っ越しするときには、引っ越し用の段ボール箱になる。



段ボールベッドは、段ボールの枠6個と段ボールの板2枚でできている。

^{*}エコノミークラス症候群は、長時間に長時間に立ち続けたり、車道の中に長時間に立ち続けたりして、血行不良が起きてしまう状態。

76

おじさん

工場をフル稼働すれば、一時間で千床作ることができ。事前に組み立てて保管しなくても、必要なときにすぐに組み立てることができるんだ。そして、何よりも安価で、丈夫。たくさんの方が同時に乗っても潰れないんだ。当初は、災害時にこのベッドを無償で提供していたんだよ。それから、全国、どこで地震が起きても支援ができるようにと考えて、他の会社でも同じ段ボールベッドが作れるよう、設計図も無償で公表したんだ。

私

どうして、無償で……。それに設計図まで。


おじさん

そうだね。これはお金の問題ではないんだ。これまで多くの自治体や会社が、災害に備え、建物を補強したり避難生活のための物資の備蓄を計画的に行ったりしてきたよ。それはもちろん大切だ。けれど、これからは、それに加えて避難所の環境をよりよいものにして、二次的な被害を最小限に抑えることも重要だと思うんだ。そこで、会社として自分たちに何かできないかと考えたんだ。これがきっかけで、段ボールベッドの有用性が認められてね。有償にはなったけど、今では業界全体の取り組みとして、災害発生時に提供できる態勢になったんだ。「段ボールベッドのおかげで体が楽になった」「冷気が取まった」「よく眠れるようになった」というような感謝の声を聞くと、段ボールベッドを考えてよかったと、心から思うよ。

私は、働くということは、利益を出してお金をもらうことだと思っていました。でも、おじさんの話を聞いて、他にも大切なことがあるのだと気づきました。

77

2年 組 番 氏名

◎本時のテーマ	
働くうえで大切なことは何か。	
■自分の考え	■みんなの考え
話し合いのメモ	
	
「私」が働くということについて気が付いた、「 」とは何でしょうか。	
